

地域のみな様と、私たちをむすぶ広報誌



公立南丹病院

Nantan General Hospital

Vol. 31

2016.10
Autumn
秋号

4階 東・地域包括ケア病棟
スタッフステーション



平成 28 年 8 月 1 日より第二病棟 4 階東が地域包括ケア病棟として稼働を始めました。地域包括ケア病棟とは、患者さんやご家族の意向を受け止めながら日常生活援助・生活リハビリ等を行う病棟です。スタッフ一同、多くの職種で協力しながら患者さんがその人らしい暮らしを送れるよう精一杯努力し支援して参ります。心配や不安な点がございましたらいつでも声をかけて下さい。よろしくお願いします。

副看護部長・病棟師長 増谷 照代

臨床研修指定病院 地域がん診療病院 救急告示病院
日本医療機能評価機構認定病院 へき地医療拠点病院
第二種感染症指定医療機関 地域周産期母子医療センター
京都府地域リハビリテーション支援センター エイズ拠点病院
京都府難病医療協力病院 地域災害医療センター
DMAT指定医療機関 認知症疾患医療センター

公立南丹病院

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野 25 番地
TEL 0771-42-2510 (代) FAX 0771-42-2096
<http://www.nantanhosp.or.jp>





公立南丹病院広報誌

病院の理念

公立南丹病院は、この地域の住民の生命健康を守る最終拠点病院である。このことを病院職員は深く認識し、患者さんの権利を守り、患者さん中心の医療を行い、患者さんから愛され信頼される病院をめざす。

患者さんの権利と責務

私たちは患者さんの権利を尊重し、十分な説明と合意に基づいた医療を行います。

1. 説明を受ける権利
2. 治療を選択する権利
3. 情報を知る権利
4. 個人匿名の保護を受ける権利
5. 自分の健康情報を正確に提供する責務
6. 説明を理解するまで問う責務
7. 病院での規則に従う責務

2016.10

Vol.31

秋号

CONTENTS

- 地域包括ケア病棟開設に寄せて ①
- 地域包括ケア病棟について ②
- 入院病棟のご案内 ②
- 平成28年度 地域医療教育推進事業... ③
- 部門紹介「認知症疾患医療センター」... ④
- DMAT隊員として ⑤
- 赴任のご挨拶 ⑤
- 公立南丹看護専門学校 ⑥
- 第70回 京都南丹市花火大会を終えて... ⑦
- 花火大会救護所で活動して ⑦
- このたび認定看護師となりました ⑧
- 「平成28年度ふれあい看護体験」を終えて ⑧
- 近隣の連携医療機関の先生方 ⑨
- 田村産婦人科医院
廣野医院
- お知らせ
第2回 公立南丹病院健康フォーラム... ⑩
- 2016年度 世界糖尿病デー
イベント開催のお知らせ ⑩
- 病院ボランティアさん活躍中! ⑩
- 平成28年度 学校見学会のお知らせ
- 公立南丹看護専門学校
平成29年度学生募集
- 看護師・助産師募集
- 編集後記

地域包括ケア病棟開設に寄せて

院長 ^{たつみ てつや} 辰巳 哲也



今年の夏も例年と変わらず、本当に蒸し暑い夏でした。幸いにして当医療圏の中では台風や局地的な大雨による災害は今のところ出ていませんが、今後も注意を怠らず、地域の基幹病院として突然訪れるかもしれない自然災害に対して、いつでも対応できる危機管理体制を確立していきたいと考えています。

また、今年の夏はリオデジャネイロオリンピックが開催され、多くの日本人アスリートが大活躍したことも、私達の心を熱くしてくれました。スポーツのすばらしさは、フェアプレー精神をもって互いに理解し合い、肉体だけではなく意思や知性、人格などの人間形成にも大きな成長を及ぼすところにあると思います。特にオリンピックという大きな国際大会では、五輪の輪に象徴される通り五大洲にまたがる多数の国々の選手が、正々堂々と一生懸命に競技をする姿が、私達に感動を与えるのだと思います。

多くの感動シーンがありましたが、私は男子体操団体と、大逆転を演じ男子体操個人総合で金メダルを取った内村航平選手の「もう何も出ないところまで出し切って取れたので、嬉しいより幸せ」という言葉と彼のすがすがしい表情や、女子卓球チームで主将を務めて若い選手をまとめながら、苦勞して銅メダルを取った福原 愛選手の大粒の涙がとても印象に残りました。長い苦難の道を乗り越え、頑張っただけのベストを尽くしてメダルを勝ち取った選手の方々の表情やコメントに、人生を生きるヒントがあるように思えました。2020年での東京オリンピックでは、さらに多くの日本人選手の歡喜の笑顔が見たいものです。

さて平成28年8月から、いよいよ4階東病棟が地域包括ケア病棟として開設されました。この場をお借りして、開設までに尽力していただいた多くの病院スタッフに心から感謝を申し上げます。

地域包括ケア病棟とは回復期リハビリ機能をもつ亜急性期病棟と言えます。通常の急性期病棟で入院治療後に病状が安定しますと、退院をしていただくことになっていますが、在宅療養にまだ不安が残る場合や、もう少し長めの入院治療が必要な患者さんには、地域包括ケア病棟に転棟していただき、安心して退院していただけるよう在宅復帰に向けての支援を行っていきます。また術後の患者さん、生活リハビリを要する患者さん、感染症全般、心不全などの慢性疾患の急性増悪、軽症の急性期疾患の患者さんなどが対象となります。具体的には主治医が判断させていただき、ご説明をした上で病棟に入っていただくことになります。

これにより平成27年12月に開設した回復期リハビリ病棟と合わせて、当院は急性期疾患を治療する6つの病棟とリハビリ機能を持つ2つの病棟を有することになりました。さらに在宅医療センター・訪問看護ステーションは通院でお困りの方々への在宅医療を支援できるものと考えます。

公立南丹病院は今後も他病院や診療所と密接な連携を取りながら、地域の実情を踏まえて病床機能分化を行い、「急性期疾患とがん診療を含む高度専門的医療」、「回復期機能と在宅支援機能」を持ち合わせた地域包括ケアシステムに貢献できる多機能病院へと進化を続けてまいります。地域の最終拠点病院として、皆様にさらに貢献できる病院になりますように、職員一丸となって頑張りますので、今後とも皆様の御協力と御支援を賜りますようどうか宜しくお願いいたします。

近隣の水田の稲穂が実る季節となりました。皆さまの秋がさわやかで実り多きものでありますように心よりお祈りしております。

地域包括ケア病棟について

副院長 けいら なつや 計良 夏哉

当院は平成28年8月から第二病棟4階東に「地域包括ケア病棟」を開設いたしました。当院のような急性期病院の急性期病棟に入院される患者さんには、日本中同じ基準のDPCという、この病気ならば何日で退院できるはずという日数が設定されています。ただしこれには患者さん独自の社会的、身体的な背景は加味されておられません。急性期病棟での治療が終了して病状が安定した患者さんの中には、迎え入れる自宅の体制が整っていない、あるいはもう少しリハビリテーションが必要な場合などの理由により、家に帰るのにご不安を抱えておられる場合があることは、わたくしども病院スタッフもよく理解しておりましたが、これまでは他の病院に転院いただくしかありませんでした。

当院は、京都府南丹二次医療圏の公的基幹病院として、地域のニーズに応えるべく急性期病棟の一部を「地域包括ケア病棟」（52床）へ転換し、すでに開設済みの回復期リハビリテーション病棟とともに、高機能に加え多機能を備えた病院に進化してまいります。もちろん「地域包括ケア病棟」は急性期病棟よりも、在宅復帰へのサポート体制を手厚くしております。病棟専任の医療ソーシャルワーカー、リハビリテーションのスタッフがいて、看護師・医師も地域医療に精通するべく努力しています。以下に示したのは「入院のご案内」への折り込みですが、ご覧いただけましたら幸いです。

入院病棟のご案内

当院には3つの特色を持った病棟がございます。患者さんの状態に適した病棟で治療いただき、スムーズにご退院できるよう、サポートさせていただきます。

急性期病棟

まずこちらの病棟にご入院いただきます。
ここで専門的な治療を受けていただき、お体の状態の回復に努めます。
場合によっては、回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟に直接ご入院いただくこともあります。

回復期リハビリテーション病棟

入院治療後、病状が安定した患者さんに対して、リハビリテーションを集中的に行い、家庭復帰や社会復帰を多職種で支援する病棟です。

対象疾患：脳梗塞 / 大腿骨の骨折 / 腰椎・脊椎の損傷など

地域包括ケア病棟

主に、病状が安定した患者さんに対して、在宅や介護施設への復帰支援に向けた医療や支援を行う病棟です。

退院・転院

- ・急性期病棟での治療を終えて、ご退院。
- ・他医療機関へのご転院。

病棟の移動は、主治医が判断しますが、病棟スタッフが患者さんとお話しして最終的に決定させていただきます。

平成28年度 地域医療教育推進事業

研修管理委員 いとう ひさと
伊藤 陽里

本年度も京都府立医科大学の医学教育プログラムの一環として、地域医療教育推進事業が8月29日から9月2日まで実施されました。当院では京都府立医科大学医学科5回生16名が様々な研修を行いました。

5月下旬より3ヶ月間の準備期間を経て研修プログラムを作成いたしました。これまで当院でこの研修に参加された学生からの多くの意見を参考に、当院ならではのプログラムを練り上げました。

当医療圏における在宅緩和ケアと救急医療に関する講義に始まり、褥瘡/NST回診、緩和ケアラウンド、ICTラウンド、リハビリ診療、腎センター、薬剤部の見学や、訪問診療、訪問看護ステーションへの同行、救急医療の見学を行いました。また今年より、当院における循環器医療に触れていただくために心臓カテーテル検査と心臓リハビリテーションの見学もプログラムに取り入れました。

8月31日には小グループにわかれて当院周辺の開業医院15施設で研修を行い、その後湯の花温泉に場所を移して研修内容を発表してもらいました。さらに平田クリニックの平田正弘先生と訪問看護ステーションの中尾美千代先生より在宅医療に関する貴重な講演をいただきました。9月1日には花ノ木医療福祉センターを見学し、所長の寺田直人先生からご講演をいただきました。9月2日にはDMAT活動の紹介と、起震車の体験実習を行いました。

このように盛りだくさんな研修内容を踏まえ、最終日には学生自身によるまとめ討論会を企画し、各々の研修についての討論を行いました。地域医療が抱える問題点や今後への課題などについて様々な意見が述べられました。そして普段の授業や実習では経験できない貴重な時間であったとの喜びと感謝の声が多く寄せられました。この中から一人でも多くの学生が病院見学などで再度当院を訪れてくれることを期待しております。最後になりましたが、今回の研修が無事終了できたのは、お忙しい中この事業にご協力いただいた多くの方々のお陰であると感謝しております。



地域医療教育推進事業(現代GP)を体験して

京都府立医科大学医学科5回生 もり たかひろ
森田 尚宏

我々は今回の地域実習において、公立南丹病院の地域での役割や連携、地域の開業医・花ノ木医療福祉センター・DMATの機能など普段体験することができない多くのことを学ばせていただきました。特に私が考えさせられたのは、花ノ木医療福祉センターの見学でした。重症心身障害を抱えた患者のケアが行われていたのですが、今まで体験したことがない状況でした。センター所長からは、実際にケアに従事されている方々の崇高な倫理観や、医療を実践する際の経済的なことについての貴重なお話を伺わせていただきました。

今回の実習を通して一番感じたことは、医療の傍には常に愛がなければならないということでした。医療従事者が愛をもって患者をケアしていくことはもちろんなのですが、従事者間でも愛や思いやりをもって行動することが、よりよい医療の実践に近づくと思います。最後になりますが、このような機会を与えてくださったすべての方々に感謝の意を述べたいと思います。有意義な研修を本当にありがとうございました。



京都府立医科大学医学科5回生 すみや なおこ
角谷 直子

一週間の地域実習にて、南丹病院や南丹医療圏の開業医さんの見学や花ノ木医療福祉センターを見学させていただきました。中でも心に残るのは訪問診療研修で出会った患者さんとその家族そして医療スタッフの姿です。私自身は京都市内の岩倉に生まれ育ち、地域医療めいたものを垣間見ながら成長しましたが、同時に大都市の恩恵に大いに預かっていたのだと実感しました。

地域医療とは決して「田舎の医療」を指すのではなく、ただあるべき医療の姿を指しており地域医療と声高に言わなければならない現状が間違っているのだと思い知らされます。

高齢化と地域格差が拡大して行く時代の中で、今も昔も変わらず求められているのは人と人が愛し合う姿なのかもしれません。自らが志す医学の道に新たな目線が加えられた一週間でした。有意義な時間をありがとうございました。



部門紹介

「認知症疾患医療センター」

精神保健福祉士 ^{よし} 吉田 ^だ ^{しほ} 汐

これって認知症？

「日常生活の中で、探し物や置き忘れが増えた…」なんてことはありませんか？

当センターでは、認知症に関する不安や悩みのある方、その家族、各関係医療機関からの認知症に関する診断や専門医療相談などに対応しております。認知症かどうかを早期に診断し、治療を開始することで症状を改善させたり、進行を遅らせることができ、状態に応じた対応を行うことが可能となります。

認知症疾患医療センター外来

予約専用電話：0771-42-2510（代）

※かかりつけ医をお持ちの方は紹介状をご準備の上、お電話ください。

相談専用電話：0771-42-5703（直）

予約受付は、9時～17時（土日・祝日・年末年始は除く）

気になる症状があれば早めの相談や受診をお勧めします。

認知症疾患医療センターの診察紹介

最初にご本人やご家族からの聞き取りを行います。いつ頃からどのような症状が出てきて、それが経過とともにどのように変化したかなど、また可能であればそのときの具体的なエピソードや気になったことなどを話していただくと診断の参考になります。



次に、臨床心理士による質問形式の認知機能検査を行います。これにより認知症の有無やその程度を判定していきます。



続いて専門医による診察を受けていただき、必要に応じて血液検査や頭部画像検査などの精査を行い、最終的な診断をつけていきます。

^さ ^{とう} ^{かつ} ^{あき} 佐藤 克明 センター長より

「認知症」というのは様々な原因で脳に障害をきたしたために、いったん獲得された知的機能（言語、記憶、思考など）が低下して、生活する上で支障をきたす状態のことをいいます。脳の働きの低下は老化によっても生じますが、「認知症」ではいびつな形で、より速く進むため、本人のみならず周囲の人たちにも驚きをもたらします。「さっき言ったことも忘れてる」など記憶力の低下が中心的な症状ですが、進行すると「料理や作業の手順がわからなくなる」「道に迷う」など、これまで何の問題もなくできていたことにも支障をきたすようになり、一人では安心して生活することができなくなります。

こうした生活面での混乱は周囲の人たちとの人間関係にもひずみを生じるようになり、このことが本人の心理面にも影響して、不安や興奮症状が現れたり、徘徊や暴力行為にまで進展していく場合があります。

長寿社会となった今、誰にでも降りかかってくる問題ですから、私どもや地域包括支援センターなどのスタッフに相談していただき、共に解決の糸口を見つけていきましょう。



DMAT隊員として

にしじま りょうすけ
看護師 西嶋 亮佑

平成28年7月23日・24日の2日間、京都第一赤十字病院にて京都DMAT養成研修が行われ、当院からは医師1名・看護師3名・業務調整員1名の計5名が研修に参加してきました。

私は看護師として参加し、DMATの基礎知識、トリアージの知識や演習、災害現場を想定した机上トレーニングや模擬シミュレーションなど様々なことを学びました。

災害現場において傷病者の優先度を決定して選別を行うトリアージ、救命処置、搬送などが看護師の主な役割です。看護師は医師とともに行動し、トリアージによって選別された優先度の高い傷病者を、限られた医療資器材を用いて救命処置を行います。さらに被災地病院に赴いての医療支援活動や、精神的ケア、疾病予防の支援なども大切な役割です。

災害は起こらないにこしたことはありません。近い将来に起こると予想されていても、災害はいつどこで起こるか分かりません。災害が起こった時には、DMAT隊員として一人でも多くの命を救う活動をしたいと思っております。勉強や、災害訓練への参加など日々の努力を惜しまないように心掛けていきたいと思えます。



DMAT (Disaster Medical Assistance Team : 災害医療派遣チーム)

赴任のご挨拶



眼科 (部長／平成10年卒)

やまだ ひであき
山田 英明

この度ご縁がありまして、平成28年10月より公立南丹病院の眼科でお世話になることとなりました山田英明と申します。出身は京都府乙訓郡大山崎町です。京都府立西乙訓高校から京都府立医科大学を経て、平成10年に京都府立医科大学眼科学教室に入局いたしました。その後、大阪などで関連病院を転々とし、この度やっと生まれ故郷の京都に戻ってくることができました。成人の屈折矯正、角膜形状解析を専門分野としておりまして、これまで Quality of Vision にこだわって仕事をして参りました。何かと至らぬ点もあることと存じますが、よろしくお願いいたします。



整形外科

(医員／平成25年卒)

はしもと しゅうすけ
橋本 秀介

平成28年9月より整形外科としてお世話になります。9月までは京都府立医科大学付属病院で診療にあたりました。地域の方々に貢献できるよう尽力していく所存です。お世話になる事が多々あるかと存じますが何卒よろしくお願い致します。

八木町、この町で学ぶ

公立南丹看護専門学校副学校長 もり 森 みずえ 瑞枝

看護学生として、この春から看護の技術を学び始めた1年生の学生39名は、専門的な学習が始まったばかりの卵達です。看護技術は、まだまだ学んでいる最中ですので、今回は主にコミュニケーションを取らせていただくことに焦点を当てて実施させていただきました。

初めての病院実習を目前に控えて、学生達は緊張しながらも2~3名で模擬患者さん達と色々なお話をさせていただきました。最初は、何から話して良いのか分からず沈黙が続いたり、緊張のせいか声のトーンがいつもより小さかったりすると、模擬患者さんから優しく話しかけていただいたり、「は~あ、ちょっと耳が聞こえにくいんです。」なんてはっきりと答えて下さったことから、学生たちもそのことに応えようと次第にいつもの調子を取り戻し、いつの間にかワイワイガヤガヤ、いい感じになって参りました。



2年生は、コミュニケーションとバイタルサインの測定がミッションに加わりました。さすがに、自然な感じで話し出しも順調でこれもひとえに、参加いただいた模擬患者さんのお陰です。模擬患者さんには、実習室のベッドに横たわり、役になりきった迫真の演技をしていただきました。お疲れ様でした。模擬患者さんのご期待に添えるよう日々、看護技術の習得に取り組んでおります。

地域住民の皆様が望まれる看護師を目指して切磋琢磨して参ります。学生のためにご協力していただきまして本当にありがとうございました。教員一同感謝しております。



3年生は、今年のゴールデンウィーク明けから、臨地実習がスタートし、病棟の現場で実際の看護を学んでいます。

学生の8月といえば夏期休暇ですが看護学校の夏期休暇は短く、それぞれ国家試験対策のサマースクールに参加し、模擬試験の間違いや添削内容で学習する日々を送っており、赤マル急上昇中の戦士たちです。

国家試験対策と同時に就職活動、「シューカツ」も本番を迎えています。この日は公立南丹病院の就職試験でした。緊張のなかそれでも元気に試験へと挑む学生の姿を見送り、教員一同で健闘を祈りました。



第70回 京都南丹市花火大会を終えて

実行委員会事務局 さいとう たけし
齊藤 武志

平成28年8月14日、第70回京都南丹市花火大会が開催されました。まずは大きな事故もなく無事終えることができたことを、ご協力ご支援いただきました関係者および観覧者の皆様に厚く御礼申し上げます。

戦後間もない昭和22年、戦没者の慰霊と町の人々の慰めにと20発の花火を打ち上げたのがこの大会の始まりだそうです。これまで一度も中断されることなく今回で第70回の節目を迎えました。本年は「森の京都」のターゲットイヤーということもあり、例年より数多くの観覧者の来場が予想されたため、より一層安全面に配慮して運営を計画しました。私自身も、花火大会に関わり今回で3回目となります。

運営計画を進めるにあたってはやはり安全面に重点を置き、会場内の混雑具合、車両の交通警備、露店店の配置、観覧客の輸送、大堰橋の通行止めなどの人員配置に気を遣います。一昨年の第68回大会の時に観覧会場を有料化したのもその理由の一つです。有料化に関しては様々なご意見もいただきましたが、入場パスポートの発行枚数を25,000枚とすることによって会場には25,000人以上は入れなくなります。第67回大会以前でしたら、打ち上げ場所の対岸に観覧者が押し寄せてしまい、保安上危険な状態であったため、入場制限をかける目的で観覧会場の有料化を導入した経緯があります。本年の観覧会場内の混雑具合などは昨年よりも1割増しでした。また広報では事前に駐車場がない旨を案内していましたが、車で来場される方は昨年よりもさらに多く、用意していた約2,000台分の駐車場が午後7時前には満車となってしまいました。

来場客数は約9万人(公式発表)ですが、有料観覧会場はまだ余裕がありました。どうしても会場の中央付近、打ち上げ場所の正面あたりに人が集まってしまいました。このあたりは例年非常に混雑するのですが、橋の上流や一番下流の方は余裕があり、座って観覧することができました。また有料会場の場所取りは15時以降ということも皆様に守っていただきました。会場内のゴミも少なく、町の中にもゴミの山もありませんでした。年々、お客様のマナーが良くなってきているように感じます。

大会当日は直前に夕立がありましたが、打ち上げ時間には雨も上がり無事に開催することができました。風が強いので花火の煙が停滞し、フィナーレに待ち時間が生じたことや、やや花火が見えにくかったのが少々残念でした。しかし、京都南丹市花火大会の魅力はなんといっても観覧席と打ち上げ場所が近いので花火の美しさと迫力を間近で体感できることです。今回も多くの皆様からたくさんのご意見、ご要望を頂戴いたしました。これまでの反省点を踏まえ、今回の大会運営を計画いたしましたが、概ね成功したのではないかと実感です。次回開催にむけて関係機関、地元住民の皆様、南丹市外からの来場客、皆様のご意見を参考にし、より多くの皆様楽しんでいただける花火大会にしたいと思います。



花火大会救護所で活動して

副看護部長 ふじさか よ
藤阪 みさ代

第70回京都南丹市花火大会が盛んに開催され約5,000発の美しい花火が打ち上げられました。今年の開催は日曜日であり大勢の観客が訪れ、美しい花火を楽しみました。

2013年8月15日、福知山花火大会露店爆発事故が発生し、多くの負傷者が出る大惨事が起こりました。このことを機に南丹市でも花火大会の安全を確保する対策が取られるようになり、その一助として今年も当院から3名の看護師が救護所への派遣依頼を受けて参加しました。

当日は体調を崩された方が数名おられ病院に受診していただきましたが、大きな事故の発生はなく、花火大会終了後に観客の皆さんの帰りを確認し、無事にその役目を果たすことができました。

歴史ある花火大会を楽しみに来られる多くの方に安心して楽しんでいただけるように、これからもご協力をさせていただきたいと思います。



このたび認定看護師となりました

皮膚・排泄ケア認定看護師 なかにし さと み 中西 智美

皮膚・排泄ケア認定看護師とは、創傷・ストーマ(人工肛門)・失禁に対する看護を専門に行う看護師のことです。私が皮膚・排泄ケア認定看護師をめざしたきっかけは褥瘡をもった患者さんが、褥瘡とその処置に伴う痛みに耐える姿を目の当たりにし、褥瘡に対する専門知識と看護ケアの必要性を強く感じたことでした。

現在は褥瘡ケアでは褥瘡専従看護師として、褥瘡の発生リスクが高い患者さんには予防ケアを、褥瘡をもった患者さんには褥瘡の早期治癒を目指した治療を、各病棟の*リンクナースや様々な職種と連携して提供しています。またストーマケアでは、ストーマを保有しながらも患者さんがその人らしく生活できるような関わりを大事にしていきたいと考えています。

皮膚は、全身を覆いあらゆる外部環境から内臓を守る最後の砦です。皮膚・排泄ケア認定看護師としてまだまだ未熟ですが、褥瘡発生を減らせるよう頑張っていきます。

*リンクナース 病棟での褥瘡発生を予防する活動を専門チームと共に行う看護師



緩和ケア認定看護師 さだかた はつ み 貞方 初美

「緩和ケア」とは「重い病を抱える患者やその家族一人一人の身体や心などの様々なつらさをやわらげ、より豊かな人生を送ることができるように支えていくケア(日本緩和医療学会)」のことをいいます。緩和ケアは終末期というイメージを持たれがちですが、私の考える緩和ケア認定看護師の役割は「できることを活かしてよりよく生きていくこと」、「人生をどう生きたいか」を一緒に考えていくことです。

病気になって悩んだ時、身体が辛い時、病気と共存する中で仕事や経済的な問題に悩む時、生きることについて悩む時、「どうすれば自分らしく人生を穏やかに過ごしていくことが出来るのか」をどうぞ一緒に考えさせてください。緩和ケア認定看護師として、より多くの人に緩和ケアの魅力を知ってもらい、一日一日を大切に生きるお手伝いをさせてもらいたいと考えています。



「平成28年度ふれあい看護体験」を終えて

副看護部長 ますたに てる よ 増谷 照代



当院は毎年「看護の日」の事業として「ふれあい看護体験」を行っています。次世代を担う中学生や高校生が医療関係者との交流や患者さんとのふれあいを通して、医療、看護への関心を高め、人の命について理解を深めてもらい、今後の目標や看護の道へと進むきっかけとなるように願っています。

7月29日、高校3年生3名と2年生1名に病院見学や実際の看護業務を体験してもらい、「想像した以上に大変だったけれどやりがいがありました」、「地域医療をしていることがわかりました」、「色々体験出来てよかったです」などの感想がありました。

いきいきと働く看護師の姿や様々な職種との連携によるチーム医療の様子など、医療の現場を肌で感じることで、参加者の看護師や医療職への思いが高まったように感じました。「ふれあい看護体験の日」にとどまらず随時インターンシップ(病院見学・看護体験)を行っています。これから看護師を目指す多くの学生の方々に、看護の現場を体験し、医療や看護の仕事、そして南丹病院の医療についても関心を持ってもらえればと思います。公立南丹病院人事係までお気軽にお問合せ下さい。お待ちしております。

近隣の連携医療機関の先生方

「院長より一言」

田村産婦人科医院
院長 田村 尚也

私の父親が昭和33年に南丹病院の産婦人科医としてこの口丹波に赴任して以来、親子2代半世紀以上にわたりこの地で産婦人科医としてお世話になっております。その間、昭和54年に当院が亀岡のこの地に開院し、以来多くの方々のご助力をたまわり、本年度37年目を迎えさせていただいております。私が当院を継承して13年ですが、最近では当院にて出生された方々が親子二代にわたり、同じ分娩室にて分娩していただいております。私も親子2代が3代にわたりご縁をいただいていることもあります。

周産期医療は開院以来当院の大きな柱ですが、時代の変化とともにその診療内容も変化しており、現在、当院では不妊症を中心とした生殖医療に専門性を持ち包括的に対応し、体外受精等の配偶子操作を含む医療をも当院分院(田村秀子婦人科医院)にて当院担当医が実施いたしております。卵子から新生児、そして更年期にいたるまで女性の一生に寄り添い患者様に安心安全を実感していただける医療を今後もこの地域で提供すべくスタッフ一同日々努力いたします。

南丹病院との病診連携は当院にとりまして非常に重要な関係であり、常日頃よりお世話になっている産婦人科、小児科に限らず、これまでにその全診療科にわたりお世話になっております。当院がこの地において産婦人科医院としてやってこられたのも南丹病院の24時間365日にわたる心強いご支援があったからと、感謝いたしております。南丹病院の発展は地域医療の充実にその中心的存在としてきわめて重要と考えております。今後ともよろしくお願いいたします。



「公立南丹病院に思うこと」

廣野医院
院長 廣野 良定

平成元年に園部町で医院を開業し町医者になると決意して28年が過ぎました。当初は、開業医の仕事に困惑することも多く、病院への患者紹介で悩んだこともありました。開業医には信頼して紹介できる病院が必要であり、円滑な病診連携が重要となります。開放型病床は、融通の利く便利な病診連携の手段と思います。

当院の診療は、高齢化率の高い地域特性もあり高齢者の診察がほとんどで、午後は訪問診療に出かけます。他には市民健診や予防接種などの保健事業、かかりつけ医意見書の作成や要介護認定に係る介護保険関連の仕事、学校医や産業医などにも係わっています。

公立南丹病院の医師の皆様とは、地区医師会の行事や研修会にてお会いする機会があります。専門的な医療情報や日常診療に役立つ知識など聞かせて頂いております。患者紹介も診療情報をお伝えし検査や治療について相談することで、円滑な紹介に繋がっていると思います。胃カメラやCT、MRI及びアイソトープ検査は、直接依頼することができるので日程の調整が容易になり便利です。また画像データのCD-Rを添付して頂けるので、診療に役立てることができます。地域連携室は、医療だけでなく介護連携にも重要な存在となっています。いつも迅速に対応して頂きありがたく思っています。

公立南丹病院には、南丹地域の中核病院として地域包括ケアを支える重要な役割があります。また認知症疾患医療センターが設置され認知症診療の拠点としても期待されます。医療連携は基より公立南丹病院のさらなる機能の充実が必要不可欠だと思います。公立南丹病院の益々の発展を期待しています。今後とも宜しくお願い致します。



お知らせ

第2回 公立南丹病院健康フォーラム

日時：12月10日(土) 13:30~17:00

場所：ガレリアかめおか2F大広間

第1部：明日に生かせる健康術

医師・看護師などの病院スタッフが明日から活かせる健康に役立つ豆知識をお届けします。

第2部：特別講演

「宇宙医学に学ぶ健康長寿の秘訣」



講師：大島 博(宇宙航空研究開発機構 技術領域主幹/医学博士)

プロフィール：昭和58年富山大学医学部卒業、英国Oxford大学生理学研究所留学、富山大学整形外科講師を経て、平成24年JAXA宇宙医学生物学研究室室長。

宇宙飛行士の骨量減少予防・体内リズムなどの研究に参加し、若田宇宙飛行士などの運動トレーニングを担当した。

催し物：

健康相談、栄養相談、病院の取り組み

メディカルチェック(血圧・動脈硬化度・その他各種測定など)

入場
無料



写真提供：JAXA

2016年度 世界糖尿病デー イベント開催のお知らせ

日時：11月8日(火) 10:00 ~ 13:00

場所：大会議室(本館2階)

11月14日は世界糖尿病デーです。

当院でも世界糖尿病デーのイベントを企画しています。

血糖測定・足のケア・運動指導・栄養指導など盛りだくさんの内容でお待ちしております。



病院ボランティアさん活躍中！

少しの時間とやさしい心を私たちに貸していただけませんか？

当院では私たちと一緒に活動していただけるボランティアさんを募集しています。また病院ボランティアの活動内容、患者さんとの関わり方、車椅子の扱い方などはじめての方でも安心してボランティアに参加していただけるよう研修会を開催いたします。

お気軽にお申し込み、お問い合わせください。

病院ボランティア研修会

《日時》平成28年10月27日(木) 13時~16時

《場所》公立南丹病院 第2病棟5階講堂

《お問い合わせ・申し込み》

公立南丹病院 0771-42-2510(代) 担当・中川

平成28年度 学校見学会のお知らせ

公立南丹看護専門学校では、看護師を目指す人々に看護学校について、知っていただくことを目的とし、学校見学会を行っております。申し込み方法・申し込み期間については、ホームページ等でお知らせしています。

日時：平成28年10月29日（土） 10:00～11:00

内容：学校紹介・学校内見学・個別相談など



平成28年 8月27日(土)のオープンキャンパスの光景

公立南丹看護専門学校 平成29年度学生募集

【推薦入試】

募集人員：10～20名程度

願書受付：平成28年11月2日（水）～9日（水）期間内必着

試験日：平成28年11月16日（水）

科目：国語総合（古文漢文除く）9:30～10:30／面接 10:45～

【一般入試】

募集人員：40名（推薦入学者を含む）

願書受付：平成28年12月1日（木）～16日（金）期間内必着

試験日：平成29年1月11日（水）

科目：国語総合（古文漢文除く）9:30～10:30／英語Ⅰ・Ⅱ 10:45～11:45

数学Ⅰ・A 13:00～14:00／面接：平成29年1月12日（木） 9:30～



詳しくは公立南丹看護専門学校のホームページ <http://www.nantan-kango.ac.jp> をご覧ください。

看護師・助産師募集（正職員・臨時職員）

正職員・臨時職員共に院内保育所の利用可。

寮（正職員のみ）利用可（月額10,480円）

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野25番地

公立南丹病院 総務課人事係 TEL 0771-42-2510（代）まで

詳しくは公立南丹病院ホームページをご覧ください。

<http://www.nantanhosp.or.jp>



編集後記

秋に入りきびしい暑さも落ち着いてきました。今年の夏はオリンピックでの選手たちの活躍を、連日熱い思いで観戦されていた方も多かったのではないのでしょうか。

同じころ、当院では地域包括ケア病棟が稼働しました。入院患者さんが在宅復帰に向けて安心して退院をしていただけるように治療や支援を行う病棟です。今後も当院の新しい取り組みや活動内容を地域の皆さんにわかりやすくお伝えすべく広報誌制作に取り組んでいきたいと思います。

広報委員 T.H.

